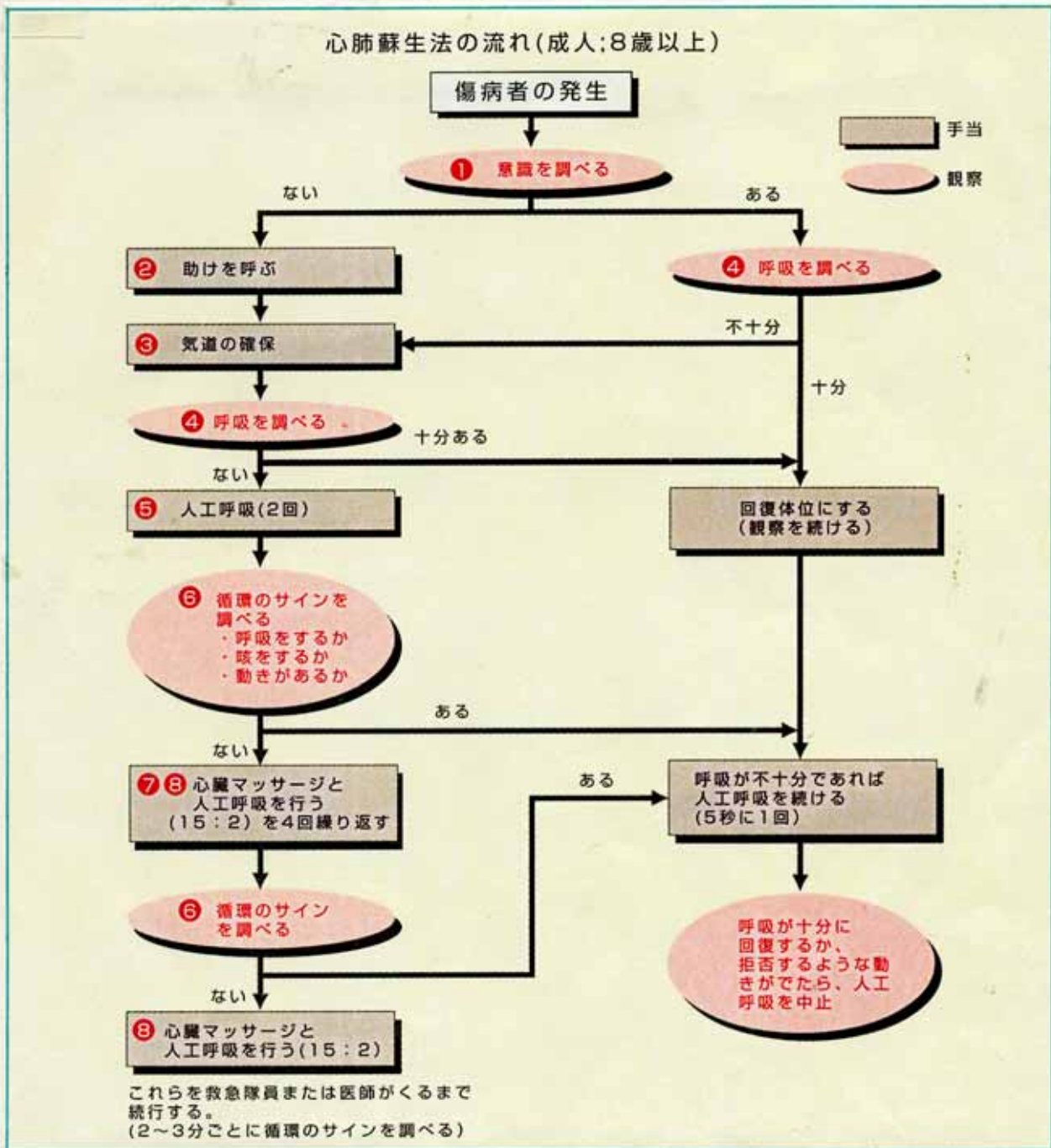


対応 6

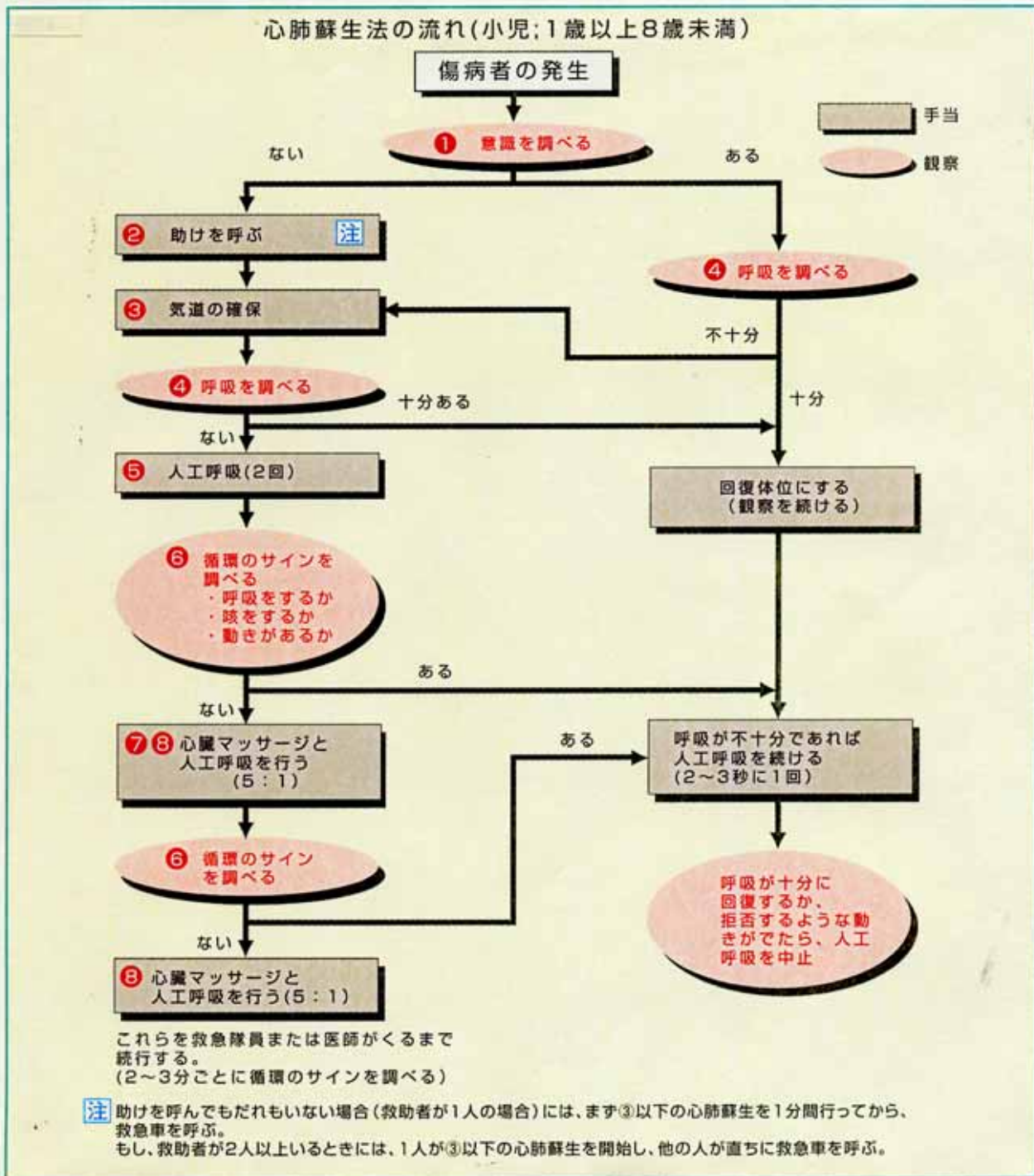
応急手当

- 学校医への連絡
- 近隣医療機関への連絡及び支援要請
- 医師免許を持つ保護者への連絡
- 心肺蘇生法 「応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに」(財団法人救急振興財団)より引用

心肺蘇生法の流れ 1 (成人:8歳以上)



心肺蘇生法の流れ 2 (小児：1歳以上8歳未満)





人工呼吸 1 (成人; 8歳以上) — 口対口人工呼吸により、肺に空気を送り込む —

- 呼吸がなければ人工呼吸を開始する。
- 気道を確保したまま、額に当てた手の親指と人差指で傷病者の鼻をつまむ。
- 口を大きくあけて傷病者の口を覆い、空気が漏れないようにして、息をゆっくりと2回吹き込む。



↑約2秒かけて500ml~800ml  
(10ml/体重1kg)吹き込む。

↑胸の動きと呼吸を確認する。

**ポイント**

- ゆっくりと約2秒かけて2回吹き込む。
- 吹き込む量は、傷病者の胸が軽く膨らむ程度〔500ml~800ml (10ml/体重1kg)〕とする。
- 吹き込んだときにスムーズに吹き込みができなかった場合は、もう一度首をもどして、気道確保をやり直し、息を吹き込む。
- どうしても口対口人工呼吸をすることに抵抗がある場合は、ハンカチを傷病者の口に置いて行ってもかまわない。また、携帯できる簡易型の人工呼吸用マスク(一方向弁付呼吸吹き込み用具)を持っていると便利である。
- もし、傷病者に傷や出血があってできない場合や、救助者の皮膚や口の周りに傷がある場合には、口対口人工呼吸を行わないで心臓マッサージのみを行ってもよい。



一方向弁付呼吸吹き込み用具

人工呼吸 2 (小児; 1歳以上8歳未満) — 口対口人工呼吸法の実施 —

- 呼吸がなければ、まず、2回息を吹き込む。

対象	方法	吹き込む時間と回数	吹き込む量
小児 (1歳以上8歳未満)	口対口人工呼吸	吹き込みに1~1.5秒 かけて2回	胸が軽く 膨らむ程度

